



しんわ

No.152

新年号

2026年

I H I
播磨病院



* 理事長 新年挨拶

* 職員旅行

* 新人紹介



新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。

本年が皆様にとってより良き一年になりますようお祈り申し上げます。

去年は2人の日本人がノーベル賞を受賞しました。日本人のダブル受賞は10年ぶりということです。

1人目は生理学・医学賞の坂口志文先生。授賞理由は『末梢性免疫寛容に関する発見』です。すなわち「制御性T細胞」の発見とその機能解明に関する研究業績が認められたということです。当院副院長森田秀樹先生は昔大学におられたころ、T細胞（当時はサプレッサーT細胞と呼ばれていた）の研究もされていたそうです。アレルギー症状抑制、がん治療、臓器移植などへ応用される可能性があります。

2人目は化学賞を受賞した北川進先生。授賞理由は『金属有機構造体Metal Organic Framework、MOF（または多孔性金属錯体 Porous Coordination Polymer、PCP）の開発』ということです。この金属有機構造体は特定の気体を貯蔵したり分離したりでき、地球温暖化対策への応用も可能と言われています。



理事長・病院長
西川 梅雄

昨年10月21日、高市早苗氏が第104代総理大臣に就任されました。日本初の女性総理大臣の誕生です。

新総理の発言「働いて働いて働いて働いて働いて働いてまいります。」（働いて×5）が流行語大賞にもなりました。「働き方改革に逆行するような発言」などの議論も出ましたが、私はやる気がある時、やらねばならない時、自分の好きなものが仕事である時など時間を考えずに「働く」べき時はあると思います。私もかくありたいと思います。

「ワークライフバランスという言葉を手放す」とも言われました。私はちょっと余分な発言だと思います。自分の現在のワークライフバランスが100%仕事に偏っているだけのことです。

例えば芸術家。新しい作品を作る時「寝食を忘れて」創作活動をしてもらい、おそらく「寝食を忘れて」出来上がった作品は、他人から見ても素晴らしい評価を得ることになるのです。

昨年11月に私の母校である「大阪府立三国丘（みくにがおか）高等学校創立130周年記念式典と祝賀会」に卒業生の一人として参加してきました。皆様ご存じのサッカーJリーグを創った川淵三郎氏が第7回卒業生です。私の19年先輩です。記念祝賀会で何とか直接挨拶できました（写真①）。サッカーJリーグ初代チェアマンで現在日本トップリーグ連携機構の会長をされています。

「夢があるから強くなる」と題した川淵三郎先輩のスピーチが約30分（写真②）。これがなかなか面白かったです。当たり前ですがほとんど高校時代の話でした。私の印象に残っている川淵先輩の話。

「大学受験失敗して浪人。浪人1年目も2年目も予備校に行かず、毎日三国丘高校へ通ってサッカーをしていた。ただただ自分の好きなことを一生懸命してただけ。一見無駄な時間に思えるが、それがないと今の私は確実にいない。三国丘高校での「5年間」(笑)に感謝している。皆さんも自分の好きなことを見つけ、一生懸命やって下さい。」・・・みたいな感じで締めくくりました。

この報告の詳細は相生市医師会ホームページの「広報など」のバナーをクリックすると出てきますので見てください。



写真①

川淵三郎先輩との2ショット。この距離がいい感じ。

私はちょっと緊張気味。私の方が老けて見えるのが不満ですけど。



写真②

川淵三郎先輩によるスピーチ。

（写真①、②ともに承諾を得て掲載）

ところで日本医師会が昨年 6 ～ 7 月に行った病院緊急調査の結果によると、2024（令和 6）年度の経常収支が赤字の病院は全体の 62.2% でその開設主体別内訳は公立病院 90.9%、国立病院 85.0%、公的病院 68.4%、医療法人 56.4%、その他 74% でした。廃業（倒産）する病院や診療所がかなり出てきました。この原因は色々あるかと思いますが。人件費や物価上昇に対して診療報酬が 1 点＝10 円のまま全く上昇していないことが原因の一つであることは明らかです。当院も大赤字でした。わが国の優れた医療制度を持続可能にするために、国民皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

いずれにせよこのままでは 2025（令和 7）年度はもっと酷い赤字になるでしょう。持続可能な医療機関とはいえません。職員全員の「経営感覚」を磨いてほしいと思います。

当院は今後も相生市を中心とする西播磨の住民の皆様の健康をお護りしていきます。本年もどうかよろしくお願い申し上げます。合掌。



令和 7 年末の富士山。（畏友西田信一郎先生が横浜市泉区から撮影。許可を得て掲載。）

職員旅行

4階病棟 木口 昌紀

10月26日に社会人1年目で初めての職員旅行に参加しました。

今回の職員旅行では、日頃の業務から離れ、皆さんとゆっくりとした時間を共有することができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。普段は部署や役職ごとに業務に集中しているため、話す機会があまりありませんでした。

ですが、今回の旅行では移動の時間や食事の席、自由行動のひとときを通して、いつもとは違う距離感で交流することができたことが印象に残っています。職場以外の環境で話すことで、普段の仕事姿からは見えない一面を知ることができ、より親近感や信頼感が深まりました。

特に印象に残ったのは、はちみつ生搾り体験です。巣房から取り出したはちみつを、遠心分離機のような機械にかけて抽出する工程を実際に体験でき、はちみつがどのように採れるのかを間近で知ることができました。機械から流れ出してくる新鮮なはちみつは香りが豊かで、味も驚くほどまろやかでした。普段口にしてはいるはちみつの奥に、こんな手間と工夫があることを知り、自然や生産者の方々への感謝の気持ちが深まりました。

最後に、このような有意義な旅行を企画し、準備してくださった皆さん、本当にありがとうございました！参加した一人ひとりがリフレッシュするだけでなく、多くの学び

や気づきを持ち帰ることができたのは、皆さんの丁寧な段取りとご配慮のおかげです。今回得た経験を活かし、今後もより良いチームワークのもとで業務に励んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

